

- 内積空間, 正規直交基底, 実対称行列の実直交行列による対角化, 二次形式を扱います.
- 配布資料等は <http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~tshun/2017a.html> にもあります.

双線形形式:  $\mathbb{F}$  を体,  $V$  を  $\mathbb{F}$  線型空間とする.  $I: V \times V \rightarrow \mathbb{F}$  が  $\mathbb{F}$  双線形形式とは

$$I(\lambda v_1 + \mu v_2, w) = \lambda I(v_1, w) + \mu I(v_2, w), I(w, \lambda v_1 + \mu v_2) = \lambda I(w, v_1) + \mu I(w, v_2)$$

となることをいう ( $\lambda, \mu \in \mathbb{F}, v_1, v_2, w \in V$ ).

対称双線形形式: さらに  $\forall v_1 \in V, \forall v_2 \in V, I(v_1, v_2) = I(v_2, v_1)$  となるとき,  $I$  は対称という.

内積:  $V$  を  $\mathbb{R}$  線形空間とする.  $V$  の内積とは, 対称  $\mathbb{R}$  双線形形式  $I: V \times V \rightarrow \mathbb{R}$  であって, さらに以下の正値性 (positivity) をみたすものをいう ( $\|v\| := \sqrt{I(v, v)}$  を  $v$  の長さという):

$$\forall v \in V \setminus \{0\}, I(v, v) > 0$$

内積空間:  $\mathbb{R}$  線形空間  $V$  と, その内積  $I$  の組  $(V, I)$  を内積空間とよぶ.

直交補空間: 内積空間  $(V, I)$  と部分線形空間  $W \subseteq V$  について

$$W^\perp := \{v \in V \mid \forall w \in W, I(v, w) = 0\}$$

を  $W$  の  $V$  における直交補空間とよぶ.  $\dim W + \dim W^\perp = \dim V, (W^\perp)^\perp = W$  が成り立つ.

コーシー・シュワルツの不等式: 内積空間  $(V, I)$  において, 以下の不等式が成立する.

$$\forall v_1 \in V, \forall v_2 \in V, |I(v_1, v_2)| \leq \|v_1\| \|v_2\|$$

$\mathbb{R}^n$  の標準内積: 数ベクトル空間  $\mathbb{R}^n$  に,  $I(x, y) = x_1 y_1 + \cdots + x_n y_n = {}^t x y$  によって  $\mathbb{R}$  双線形形式を定義すると, これは  $\mathbb{R}^n$  の内積になる. ここで  $x = {}^t(x_1, \dots, x_n), y = {}^t(y_1, \dots, y_n)$  である.

正規直交系: 内積空間  $(V, I)$  において,  $v_1, \dots, v_n \in V$  は,  $1 \leq i, j \leq n, I(v_i, v_j) = \delta_{i,j}$  となるとき, 正規直交系であるという. ここで  $\delta_{i,j}$  はクロネッカーのデルタである.

(注): 正規直交系は線形独立である.

グラム・シュミット直交化法:  $(V, I)$  を内積空間,  $a_1, \dots, a_r \in V$  が線形独立のとき,  $c_i = b_i / \|b_i\|$  でえられる  $c_1, \dots, c_r$  は正規直交系になる. 特に  $a_1, \dots, a_r$  が基底であれば,  $c_1, \dots, c_r$  は正規直交基底 (ONB, orthonormal basis) になる.

$$b_1 = a_1, \quad b_2 = a_2 - \frac{I(a_2, b_1)}{I(b_1, b_1)} b_1, \quad b_3 = a_3 - \frac{I(a_3, b_1)}{I(b_1, b_1)} b_1 - \frac{I(a_3, b_2)}{I(b_2, b_2)} b_2, \dots$$

実直交行列:  $n \times n$  実行列  $P$  は  $P^{-1} = {}^t P$  となるとき, 実直交行列とよばれる.  $A = (p_1, \dots, p_n)$  と列ベクトル  $p_1, \dots, p_n \in \mathbb{R}^n$  を用いて表示すると,  $P$  が実直交行列であることと,  $p_1, \dots, p_n$  が  $\mathbb{R}^n$  の ONB であることは同値である.

実対称行列の実直交行列による対角化：実対称行列  $A$  の固有値は実数になり、さらに実直交行列  $P$  により対角化可能である。

(注)：実対称行列  $A$  の固有値が実数になるのは、 $A = {}^t A$  であるからというよりも、 $A = \overline{{}^t A}$  (エルミート行列) であることが本質的である。

(注)：上で  $P$  は次のようにして求めればよい。

1.  $A$  は対角化可能なので、 $Q^{-1}AQ$  が対角行列になるような実可逆行列  $Q = (\mathbf{q}_1, \dots, \mathbf{q}_n)$  が存在する
2.  $\mathbf{q}_1, \dots, \mathbf{q}_n$  にグラム・シュミット直交化を施して、 $\mathbf{p}_1, \dots, \mathbf{p}_n$  をえたとすると  $P = (\mathbf{p}_1, \dots, \mathbf{p}_n)$  とすればよい

正定値： $n \times n$  実対称行列  $A$  は

$$\forall \mathbf{x} \in \mathbb{R}^n \setminus \{\mathbf{0}\}, {}^t \mathbf{x} A \mathbf{x} > 0$$

をみたすとき正定値 (positive definite) とよばれる。

正定値判定法： $n \times n$  実対称行列  $A$  について以下はすべて同値である。

1.  $A$  は正定値
2.  $A$  の固有値がすべて正
3.  $1 \leq \forall k \leq n, \det A_k > 0$  (ここで  $A_k$  は  $A$  の  $1 \sim k$  行・列からなる  $k \times k$  部分行列である)

## 1 演習問題

(A1)  $\mathbb{R}^4$  に標準的な内積を入れる。 $V$  を

$$\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

で生成される  $\mathbb{R}^4$  の部分ベクトル空間とする。このとき  $V$  の  $\mathbb{R}^4$  における直交補空間  $W$  の基底を 1 組求めよ (平成 25 年度京大大学院入試より)。さらにそれを ONB にせよ。

(A2) 標準的なユークリッド内積  $\langle, \rangle$  が与えられた実線型空間  $\mathbb{R}^4$  において、次のベクトル  $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$  で張られる部分線型空間を  $W$  とする。

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_4 = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$$

1.  $W$  とその直交補空間  $W^\perp$  の基底をそれぞれ 1 組求めよ (2008 年度名大大学院入試より)。

2.  $W$  とその直交補空間  $W^\perp$  の正規直交基底をそれぞれ 1 組求めよ.

(A3)  $2 \times 2$  の実直交行列  $P$  は, 適当な  $\theta \in \mathbb{R}$  を用いて  $P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$  または  $P =$

$\begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}$  となることを示せ.

(A4) 2 次曲線  $2x^2 + 4xy - y^2 = 1$  は楕円・双曲線のいずれになるか論じなさい.

(A5) 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & -1 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

に対して,  ${}^tPAP$  が対角行列となるような直交行列を 1 つ求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

(A6) 以下の問に答えよ.

1. 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -2 \\ 1 & 2 & -2 \\ -2 & -2 & 1 \end{pmatrix}$$

に対して,  ${}^tPAP$  が対角行列となるような直交行列を 1 つ求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

2. 3 変数関数

$$f(x, y, z) = 2x^2 + 2y^2 + z^2 + 2xy - 4xz - 4yz = (x, y, z)A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

に対して,  $\frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2}$  ( $(x, y, z) \neq (0, 0, 0)$ ) の上限および下限

$$\sup \left\{ \frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2} \mid x, y, z \in \mathbb{R}, (x, y, z) \neq (0, 0, 0) \right\}$$

$$\inf \left\{ \frac{f(x, y, z)}{x^2 + y^2 + z^2} \mid x, y, z \in \mathbb{R}, (x, y, z) \neq (0, 0, 0) \right\}$$

を求めよ (2008 年度名大大学院入試より).

(A7) 対称行列  $A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$  において

$$a > 0, b > 0, a + b = 1$$

とする.

1. 行列  $A$  の固有値と固有ベクトルを求めよ.

2. 任意のベクトル  $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$  に対して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} A^n \mathbf{v} = \frac{x+y}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

が成り立つことを示せ (2007 年度名大大学院入試より).

(A8) 行列  $A$  の転置行列を  ${}^tA$  で表す.  $n \geq 2$  を整数として,  $n$  次の実対称行列  $A$  が正値であるとは, 任意の列ベクトル  $u \in \mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  に対して  ${}^t u A u > 0$  が成り立つことをいう. 以下の問に答えよ.

1.  $B$  を実正則行列とすると,  $A = {}^t B B$  は正定値実対称行列であることを示せ.
2.  $A$  を正値実対称行列とすると,  $A = {}^t B B$  となる実正則行列が存在することを示せ (2014 年度名大大学院入試より).

(A9) 行列, ベクトルは実数成分であるものとし, ベクトル  $\mathbf{v}$  の大きさを  $\|\mathbf{v}\|$  で表す. 以下の問に答えよ.

1. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 5 \end{pmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとし, 第一成分は非負とする.

2.  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3, \mathbf{x} \neq \mathbf{0}$  なら  $A\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$  となることを示せ.
3.  $\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$  のとき

$$F(\mathbf{x}) = \frac{A\mathbf{x}}{\|A\mathbf{x}\|}$$

とする. (a) で求めた固有値を  $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$  ( $\lambda_1 \geq \lambda_2 \geq \lambda_3$ ), 対応する単位固有ベクトルをそれぞれ  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$  とする.  $a_1, a_2, a_3 \in \mathbb{R} \setminus \{0\}$  に対し

$$\mathbf{x}_0 = a_1 \mathbf{e}_1 + a_2 \mathbf{e}_2 + a_3 \mathbf{e}_3, \quad \mathbf{x}_{n+1} = F(\mathbf{x}_n)$$

でベクトルの列  $\{\mathbf{x}_n\}_{n=0}^{\infty}$  を帰納的に定義する.  $\mathbf{x}_n$  を  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$  の一次結合として表示し, 係数を  $a_1, a_2, a_3$  で表せ.

4. (c) で与えた  $\{\mathbf{x}_n\}_{n=0}^{\infty}$  に対し極限  $\lim_{n \rightarrow \infty} \mathbf{x}_n$  が存在し,  $A$  の固有ベクトルになることを示せ (2011 年度名大大学院入試より).

(A10)  $x^2 + y^2 + z^2 = 1$  という条件のもとで, 実 2 次形式  $Q(x, y, z) = ax^2 + by^2 + cz^2 + 2fyz + 2gzx + 2hxy$  の最大値を  $M$  とすれば,  $M$  は  $\lambda$  に関する方程式

$$\begin{vmatrix} a - \lambda & h & g \\ h & b - \lambda & f \\ g & f & c - \lambda \end{vmatrix} = 0$$

の解になっていることを証明せよ (2017 年度阪大大学院入試より).